

平成 29 年度

年 報

ANNUAL REPORT

VOL.22



島根大学産学連携センター

— 松江地区 —

Collaboration Center, Shimane University

本年報について

本年報は、主に、平成 29 年度における島根大学産学連携センター松江地区に関する活動についてまとめたものです。

島根大学産学連携センター（松江地区）
平成29年度年報目次

1	産学連携センターの紹介	1
1-1	構成.....	2
1-2	スタッフ一覧.....	3
2	産学連携センター(松江地区)の産学連携活動	5
2-1	主催事業.....	6
2-1-1	平成29年度しまね地域MOTセミナー「ヘルスケアビジネスにおける顧客価値からみた展開手法」.....	6
2-1-2	島根大学・松江高専「学生による研究発表会&産学交流会」.....	7
2-1-3	技術コミュニティラボ第1回ミーティング「産業界における金属3Dプリンタの活用」.....	9
2-1-4	アグリ・メディカル新技術説明会.....	11
2-1-5	技術コミュニティラボ第2回ミーティング「ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラムの開発」.....	14
2-1-6	平成29年度しまね地域MOTセミナー「MOTマーケティングセミナー」.....	15
2-1-7	技術コミュニティラボ 第1回勉強会.....	16
2-1-8	平成29年度しまね地域MOTセミナー「未来の顧客価値を創出するためのロードマップ作成の基礎と実践的活用法」.....	17
2-1-9	技術コミュニティラボ第3回ミーティング「データサイエンスの活用と機械学習」.....	18
2-2	後援事業.....	19
2-2-1	産学連携学会 関西・四国支部 第9回研究・事例発表会.....	19
2-3	イベント等での研究シーズ発信.....	20
2-3-1	DX Innovation Forum Season.1 in 岡山.....	20
2-3-2	イノベーション・ジャパン2017.....	21
2-3-3	アグリビジネス創出フェア2017.....	22
2-3-4	第7回おおた研究・開発フェア.....	23
2-3-5	DIS「ICT EXPO2017in山陰」.....	24
2-3-6	メッセナゴヤ2017.....	25
2-3-7	しまね大交流会.....	26
2-4	他機関との連携促進・技術動向に関する情報収集活動.....	27
2-4-1	平成29年度中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議.....	27
2-4-2	産学連携学会第15回大会.....	27
2-4-3	第9回コラボ産学官通常総会.....	28
2-4-4	近畿大学工学部 産学官連携推進協力会 総会・記念講演会・技術発表会.....	28
2-4-5	第6回産学連携意見交換会.....	28
2-4-6	平成29年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議.....	29

2-4-7	中国地域産学官コラボレーション会議 第16回全体会議	29
2-4-8	中国地域産学官コラボレーションシンポジウム「地域イノベーション創出 2017 in しまね」	30
2-4-9	平成29年度島根県産業技術センター研究成果発表会	31
2-4-10	第4回GO-YENセミナー 医工連携によるロボロボビジネスの挑戦	31
2-4-11	文部科学省シンポジウム「オープンイノベーション共創シンポジウム」	32
2-4-12	徳島県職員研修「産学民官の合意形成による政策連携」	32
2-4-13	第1回人間科学研究フォーラム	33
2-4-14	東日本リエゾンカンファレンス2017 in 弘前	33
2-4-15	徳島県職員研修「知識創造社会の構築に向けて」	34
2-4-16	第30回国立大学法人共同研究センター等教員会議	35
2-4-17	「安全保障技術研究・研究者倫理」に関するシンポジウム	35
2-4-18	第29回国立大学法人共同研究センター長等会議	36
2-4-19	とくしま先進政策講座 第1回「水素社会」	37
2-4-20	第4回地域活性学会中国四国支部会合	38
2-4-21	島根大学附属図書館「地域コミュニティラボ」開設記念展示 ギャラリートーク	38
2-4-22	平成29年度JST産連事業公聴会	39
2-4-23	第2回人間科学研究フォーラム	39
2-4-24	平成30年度科学技術振興機構 事業説明会	39
2-4-25	平成29年度 地域志向教育研究経費 取組報告会	40
2-4-26	学生と企業技術者による合同研究技術発表会	41
2-4-27	とくしま先進政策講座「アンカーサミット」	41
2-4-28	産学連携学会 地域社会実装研究会 第1回定例研究会「先進事例に学ぶ産学官連携の可能性」	42
2-4-29	静岡大学産学連携協力会 来訪	43
2-4-30	アンダラス大学 来訪	43
2-4-31	北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウム「オホーツク地域における金融機関と大学機関との連携の可能性」	43
2-4-32	やさしい医工連携シンポジウム2018	44
2-4-33	大学の地域連携、産学連携に関する勉強会	45
2-4-34	平成29年度新産業創出研究会 定例会議	45
2-4-35	産学金官情報交換会	46
2-4-36	産学連携センター活動協議会	46
2-5 各種外部委員活動等		47
2-6 産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択		48
2-9-1	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター 平成29年度新産業創出研究会	48
2-9-2	島根県 平成29年度技術シーズ育成支援事業	48
2-7 広報活動		49
2-7-1	島根大学研究シーズ集 追加作成	49
2-7-2	メール配信	49

3	平成29年度科学技術相談（松江地区の担当分）	51
4	平成29年度共同研究一覧	53
5	産学連携センター地域産業共同研究部門 研究設備の紹介	56

1-1 構成

「産学連携センター」は、島根大学における産学連携活動の中核を担っており、企業からの科学技術相談や共同研究などの企画・推進に加え、プロジェクト研究の企画・推進の強化や特許などの知的財産の創出・活用の推進を主な業務としています。

これらの活動を円滑に行うために、①「地域産業共同研究部門」、②「地域医学共同研究部門」、③「連携企画推進部門」、④「知的財産創活部門」の4部門があります。

各部門に部門長と専任教員を配置するとともに、産学官連携コーディネーターや客員教授など外部の専門家の協力を得て、産学連携活動を展開しています。特に、全国でも数少ない医学系に産学連携の専任教員を配置していること、そして、産学連携のリエゾン活動から知的財産の活用までの活動を一つの組織で推進していることが、大きな特色です。

【地域産業共同研究部門（松江地区）】

【地域医学共同研究部門（出雲地区）】

科学技術相談への対応や企業等との共同研究等の企画や推進を行っています。

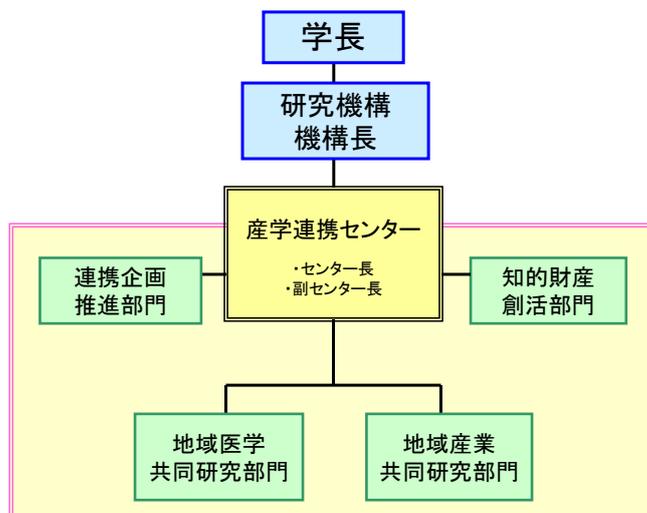
地域産業共同研究部門では、特に地域の産業界との共同研究を主眼において、また、地域医学共同研究部門では、特に地域の医学、医療、福祉に関する共同研究を主眼において活動しています。

【連携企画推進部門】

産学連携センターの各部門及び各学部との強固な連携の元に、大学の研究戦略や地域の産業振興戦略と歩調を合わせた、研究プロジェクトの企画・推進及び大型の外部研究資金の獲得に向けたリエゾン活動を展開しています。

【知的財産創活部門】

大学で創出される研究成果などの知的創造資産を、特許などの知的財産に結びつけ、社会での活用を促進しています。



島根大学における産学連携推進体制

1 産学連携センターの紹介 / スタッフ一覧

1-2 スタッフ一覧

職種	氏名 (所属)
センター長	大庭 卓也 (総合理工学研究科 教授)
副センター長	森田 栄伸 (医学部 教授)
産学官連携コーディネーター	芦矢 嘉郎 (島根県商工労働部産業振興課)

【地域産業共同研究部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	増永 二之 (生物資源科学部 教授)
産学連携マネージャー (共同研究担当)	北村 寿宏 (教授, 専任教員)

【地域医学共同研究部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	森田 栄伸 (医学部 教授)
産学連携マネージャー (共同研究担当)	中村 守彦 (教授, 専任教員)

【連携企画推進部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	大庭 卓也 (総合理工学研究科 教授)
産学連携マネージャー (連携企画担当)	服部 大輔 (准教授, 専任教員)

【知的財産創活部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	山田 容士 (総合理工学研究科 教授)
産学連携マネージャー (知的財産担当)	松下 幸之助 (教授, 専任教員)

【支援スタッフ】

松江地区	上田 由美子, 岡 千亜妃
出雲地区	山崎 享子, 野津 香織

【客員教授】

担当分野	氏名（現職等）
コーディネート活動 共同研究企画	吉野 勝美（島根県産業技術センター 所長）
コーディネート活動	金山 信幸（有限責任事業組合プラズマ技術研究開発センター 代表）
コーディネート活動	伊藤 正和（和鋼博物館 館長）
コーディネート活動	大森 健一（東京工業大学 特別顧問）
広域コーディネート活動	小金 民造（K - a r i n 2 1 代表）
MOT 教育 起業支援	出川 通（株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役）
知的財産権関連	田辺 義博（田辺特許商標事務所 所長 弁理士）
知的財産権関連	中野 睦子（三枝国際特許事務所 弁理士）
コーディネート活動	楠田 和身（近畿大学工学部非常勤講師（特許管理））
コーディネート活動	山下 晃功（島根大学名誉教授）
コーディネート活動	板村 裕之（島根大学名誉教授）

2-1 主催事業

産学連携の第一歩として、研究成果を産業界の方々に知っていただくことが必要です。

当センターでは、このような目的から、産業界の方々向けに各教員の研究成果を紹介する場を企画し実施しています。

平成 29 年度に当センターが主催として、企画実施した事業を以下に紹介します。

2-1-1 平成 29 年度しまね地域MOTセミナー「ヘルスケアビジネスにおける新事業展開手法」

日時：平成 29 年 6 月 13 日(火)10:30～17:30

会場：テクノアークしまね 4 階 小会議室

主催：島根県、公益財団法人しまね産業振興財団、島根大学産学連携センター

【概要】

島根大学産学連携センターでは、島根県内の関連機関と連携し 11 年前から「しまね地域MOTセミナー」として開催してきました。

島根県では、健康をキーワードに、地域資源を活用し多様な分野と連携しヘルスケア分野での新事業創出に向けた取り組みを行っています。

今回は、(株)テクノ・インテグレーションの出川 通 代表取締役（島根大学産学連携センター 客員教授）を講師に迎え、ヘルスケアビジネスでの新事業創出に焦点を当て、新事業創出のマーケティングを中心に、座学と、自らが行おうとしている新しい事業を題材にして、自己検討と参加者間で議論を行うグループ討議を組み合わせたMOTセミナーを開催しました。

当日は、「島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業」に採択された企業から 12 名が参加し、熱心に講師の話を聞くと共に、グループ討議（演習）では各自が持ち寄った課題について活発な議論が行われ、会場が熱気に包まれるほどでした。

自ら想定するサービスや新製品で顧客や顧客価値をどのように整理して行くかなどの演習とグループ討議を行うことで、新事業の展開におけるマーケティングについての理解を深められました。また、参加者間の交流が活発に行われ、自然に異業種交流となりました。



2-1-2 島根大学・松江高専「学生による研究発表会&産学交流会」

日時：平成 29 年 7 月 5 日(水)13:30～17:00

会場：島根大学総合理工学部 3 号館 2 階多目的ホール

主催：島根大学（産学連携センター，地域未来戦略センター，
総合理工学研究科附属産学官教育推進センター，
生物資源科学部地域連携室）

松江工業高等専門学校 地域共同テクノセンター

共催：島根県，公益財団法人しまね産業振興財団

【概要】

日頃，企業の皆様から「大学ではどのような研究が行われているのかよく分からない」，「大学での研究は難しくてなかなか理解できない」などと言われることがあります。そこで平成 27 年度より，企業の皆さんに，学生が日頃行っている研究を紹介し，参加者間で意見交換ができるように「学生による研究発表会&産学交流会」を開催しています。



当日は，まず島根大学産学連携センターから，大庭卓也 センター長が挨拶と，北村寿宏 教授が本学における産学連携について紹介しました。

続いて，島根大学の学生 13 名と松江高専の学生 2 名が，日頃行っている研究について 3 分間のショートプレゼンテーションとポスターセッションを行いました。

ポスターセッションでは，ポスターの前で研究内容を詳しく紹介しました。それぞれ常に人だかりができており，回を重ねるごとに，より熱心な意見交換がなされるようになったと感じられました。その意見交換は，発表者同士や参加者同士でも行われ，異分野の交流にもなっていました。

参加者は，学外からは約 30 名で，学内参加者と発表者や主催関係者も含めると，合計で約 80 名となり，会場が狭く感じるほどでした。

その後，学外からの参加者に，総合理工学部と生物資源科学部のそれぞれのコースに分かれて，研究室（実験室）見学をしていただきました。



【発表者】

No.	学部・氏名	テーマ
1	島根大学 河田智治	無線センサネットワークにおけるモバイルシンクとクラスタリングを用いたデータ収集に関する研究
2	島根大学 吉田智紀	実用性の高い化学選択的な <i>N</i> -アセチル化反応の開発
3	島根大学 岡田和樹	低コヒーレンスデジタルホログラフィによる多層塗膜計測
4	島根大学 本岡正幸	転がり軸受の接触解析理論及び実験に関する研究
5	島根大学 山本諒太郎, 添田圭佑	KOH を用いた RE 系超伝導体の作製と特性の改善
6	島根大学 鈴木絢子	新規焼結法を用いた異方性を有する材料の性能向上
7	島根大学 田中健三	鉄鋼材料に含まれる組織の定量評価
8	松江工業高等専門学校 岸 純夏	積層クラッドを用いた炭素鋼に対するアルミナイド被膜の生成
9	松江工業高等専門学校 多久和萌美	$\beta + \gamma$ 型チタンアルミ合金の耐酸化性と表面被覆
10	島根大学 塚越亮允, 山中佑夏	織毛虫ミドリゾウリムシと緑藻クロレラの細胞内共生とその応用
11	島根大学 池田英治	島根県内土壌における土壌改良効果を持つ機能性微生物の探査
12	島根大学 松浦有紀	木質チップを用いた災害対応・低エネルギー型有機質汚泥処理技術の開発
13	島根大学 吉本匠美	カキ‘西条’の雄花を用いた研究

【研究室見学／総合理工学部コース】

研究室 教員	概要
有機化学 2 研究室 中田健也 分子機能化学研究室 飯田拡基	核磁気共鳴分析装置, ならびに有機・高分子系研究室の紹介を行いました。
笹井・藤村研究室 笹井 亮	材料科学に関する各種分析装置ならびに研究室の紹介を行いました。
機械設計研究室 李 樹庭	歯車, 軸受などの機械要素設計に関する最新研究成果及び性能評価実験装置の紹介を行いました。
生物環境化学研究室 鈴木美成	環境評価関連の研究室を行っている研究室ですが, 食品等のミネラル分析など県内企業との共同研究も行っています。トリプル四重極 ICP-MS を中心とした装置を見学して頂きました。

2-1-3 技術コミュニティラボ第1回ミーティング「産業界における金属3Dプリンタの活用」

日時：平成29年7月28日(金)15:00～17:20

会場：島根大学産学連携センター 2階 研修室

主催：島根大学，島根県

【概要】

平成29年7月28日(金)に，島根大学産学連携センター研修室で，技術コミュニティラボ第1回ミーティングを開催しました。

技術コミュニティラボは，少人数&双方向性の情報交換の「場」であり，情報提供者である大学教員等と産業界を結びつけ地域における大学の垣根を低くするとともに，産学官連携をベースとしたイノベーションを創出するための新たな取り組みで，「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」(COC+事業)の「しまねクリエイティブラボネットワーク」の一つとして，島根大学と島根県が共同開催しているものです。

今回のミーティングでは，『産業界における金属3Dプリンタの活用』と銘打って，情報提供者として近畿大学工学部の京極 秀樹 教授を，また，ゲストファシリテータとして「事業化マッチングのためのラウンドテーブル」考案者である熊本市役所の青山 光一 コーディネーターをお呼びし，金属3Dプリンタに興味をもつ地元企業や，本学の修士課程の学生や教員，島根県やしまね産業振興財団といった支援機関などのメンバー計27名がミーティングに参加しました。

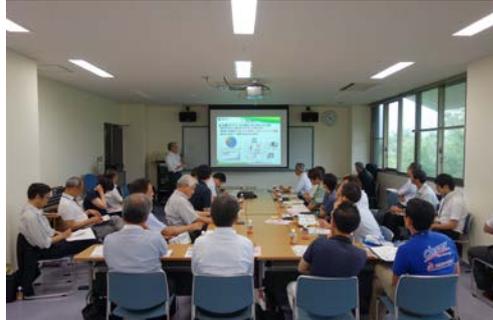
はじめに熊本市役所の青山氏より，熊本県における「事業化マッチングのためのラウンドテーブル」に関する事例紹介があり，場作りのコツとして楽しい雰囲気作りが特に重要であり，「聞きたい時に聞けること」，「聞ける雰囲気の醸成」，「他の参加者を気にしない」，「そこまで参加者が多くないこと」といったキーポイントについて説明がありました。また，机の配置や参加者同士の距離が重要であり，過去の失敗や成功事例を元に研究者と企業との双方向の情報交換について説明して頂きました。

次に，青山氏の司会のもと，参加者が一人ずつ自己紹介を行いました。それぞれの自己紹介が終わるたびに拍手をして，楽しい雰囲気を醸成しました。

その後，京極教授より，「金属積層造形技術の概要」，「金属積層造形技術の適用例」，「研究開発の動向」，「次世代産業用3Dプリンタ開発」，「次世代3Dプリンタによるものづくり」について情報提供がありました。京極教授は，大規模な国のプロジェクト・リーダーをつとめられており，日本国内や世界の金属3Dプリンタに関する動向や，最新の知見について様々な写真や動画を交えて非常にわかりやすく説明されました。この発表の間にも，ファシリテータの青山氏の誘導により，参加者から次々と質問が挙がり積極的な情報交換が行われるとともに，残りの質疑応答時間も様々な質問やコメントがありました。

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動 / 主催事業

プログラム	
15:00～	熊本市における事業化マッチングのためのラウンドテーブル (熊本市役所 青山光一氏)
15:20～	金属3Dプリンタの可能性と活用について (近畿大学工学部 京極秀樹 教授)
16:20～	意見交換・ディスカッション (ファシリテータ:熊本市役所 青山光一氏)
17:30～	情報交換会 (会場:テクノアーク島根内 遊食倶楽部)



2-1-4 アグリ・メディカル 新技術説明会

日時：平成 29 年 10 月 24 日(火)12:55～16:00

会場：科学技術振興機構（JST）東京本部別館 1 階ホール

主催：科学技術振興機構，鳥取大学，島根大学，
鳥取県産業技術センター，島根県産業技術センター

後援：鳥取県，島根県，鳥取県産業振興機構，しまね産業振興財団

協力：中国地域産学官連携コンソーシアム

【概要】

平成 29 年 10 月 24 日(火)に，東京・市ヶ谷の JST 別館ホール 1 階にておいて，アグリ・メディカル新技術説明会を開催しました。

新技術説明会は，大学や公設試験研究機関等から生まれた研究成果の実用化を促進するために開催される科学技術振興機構（JST）の事業です。

山陰地域の大学，公設試験研究機関が連携して開催するのは 1 1 回目となり，農学および創薬に関する研究をテーマに，島根大学，鳥取大学，島根県産業技術センター，鳥取県産業技術センターから計 6 件の新技術の発表が行われました。

本学からは 2 件の発表がありました。

まず，「Epstein-Barr ウイルス関連癌に特異的な抗腫瘍剤」をテーマに医学部医学科 吉山裕規 教授が発表しました。

次に，「タグ抗体でお悩みのあなた！新しいシステムができました」をテーマに医学部医学科 浦野 健 教授の新技術について，当センターの中村守彦 教授が代理で発表しました。

当日は，台風の影響にもかかわらず関東圏を中心に 109 名の参加者が集まり，山陰発の新技術に熱心に耳を傾けられていました。

また，各発表の終了後には，会場外にて名刺交換が行われ，担当コーディネーターも交えた交流が行われました。



閉会挨拶：大庭卓也 産学連携センター長



吉山裕規 教授



中村守彦 教授



名刺交換の様子

島根大学の技術シーズ発表

創薬

Epstein-Barr ウイルス関連癌に特異的な抗腫瘍剤
 医学部 医学科・微生物学講座 吉山裕規 教授

新技術の概要

Epstein-Barr ウイルス (EBV) は、ヒトの B リンパ球や上皮細胞に長期間潜伏持続感染し、腫瘍化する。今回、ウイルスの microRNA (BART miRNA) の転写調節を行う転写因子を同定した。この転写因子の結合化合物は、BART miRNA の産生量を抑制し、EBV 感染上皮性腫瘍細胞における溶解増殖感染を誘導し、感染細胞のアポトーシスを導く。EBV 感染上皮性腫瘍に特異的な抗腫瘍剤の開発が可能である。

【従来技術・競合技術との比較】

類似の United States Patent 20150329865 は、ウイルス miRNA のうち miR-BART20-5p の活性を核酸薬により阻害し、ウイルス溶解感染を誘導し、ウイルス感染細胞を破壊させる。一方、今回の提案は 2 点が違う。1) 1 個のみではなく、20 個以上の EBV miRNA の発現を同時に抑制する。2) 特定の ETS ファミリー遺伝子を対象とし、核酸薬ではなく化合物を用いてウイルス感染細胞にアポトーシスを誘導し、抗腫瘍作用を発揮する。

【新技術の特徴】

- ・ ETS ファミリー遺伝子の阻害は EBV 潜伏感染細胞に特異的にアポトーシスを引き起こした。
- ・ US 20050221490 A に記載されている核酸誘導体を用いた DNA ウイルス由来 miRNA 阻害剤は、転写を抑制できない。
- ・ ユーイング肉腫の治療薬として臨床応用間近な、ETV1 阻害薬 YK-4-279 が、ウイルス感染細胞にアポトーシスを誘導できた。

【想定される用途】

- ・ EBV 感染上皮性腫瘍に特異的な抗腫瘍剤として、EBV 関連胃癌及び上咽頭癌などの治療に用いる。
- ・ EB ウイルス感染症に対する特異性が高いため他の薬剤との併用が容易である。
- ・ 予後不良な EB ウイルス増殖性疾患への適応拡大も想定される。

島根大学の技術シーズ発表

創薬

タグ抗体でお悩みのあなた！新しいシステムができました

医学部 医学科・生化学講座 浦野 健 教授

新技術の概要

短いアミノ酸配列を高感度で特異的に認識するモノクローナル抗体を開発しました。この短いアミノ酸配列と本抗体からなるタグシステムはウエスタンブロットではバックグラウンドが非常に低く、免疫沈降法や細胞染色にも威力を発揮します。さらに酵母ではクロマチン免疫沈降法（ChIP）にもきちんと使えます。

【従来技術・競合技術との比較】

抗体が認識するタグ配列が5アミノ酸と非常に短いため、標的遺伝子の前後にオリゴDNAを用いて簡単にタグ配列を挿入することができます。分子生物学的手技のほとんどすべてに応用できるタグシステムです。核内タンパク質の細胞染色でも威力を発揮します。

【新技術の特徴】

- ・ウエスタンブロットでのバックグラウンドが非常に低いです。
- ・免疫沈降法，細胞染色，クロマチン免疫沈降法（ChIP）にも威力を発揮します。
- ・ヒト細胞ばかりではなく，酵母にも使用できます。

【想定される用途】

- ・抗体がまだ存在しないタンパク質でもその細胞内局在を可視化できます。
- ・タグを付加したタンパク質の細胞内複合体をしっかりと保持し，質量解析に持っていくことができます。
- ・酵母などでのクロマチン免疫沈降法（ChIP）に使用できます。

2-1-5 技術コミュニティラボ第 2 回ミーティング「ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラムの開発」

日時：平成 29 年 11 月 8 日(水)15:00～17:00

会場：島根大学産学連携センター 2 階 研修室

主催：島根大学，島根県

【概要】

第 2 回ミーティングでは、『ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラムの開発』をテーマに，本学人間科学部の宮崎亮 准教授に情報提供して頂きました。

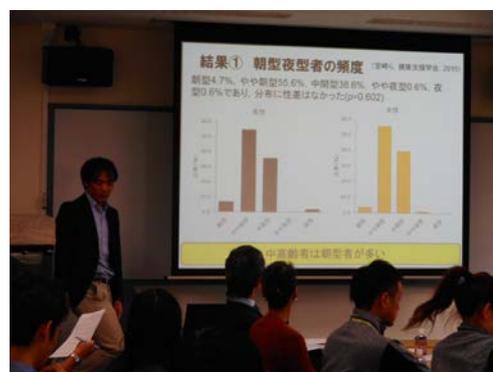
参加者として，ヘルスケア分野に興味をもつ地元企業様，銀行，本学の学生や教員，自治体，支援機関などのメンバー計 21 名がミーティングに出席しました。

宮崎 准教授からは，「陸上競技の世界記録は夕方破られるはホント？」，「運動による健康効果」，「ウェアラブル端末と運動」，「朝型・夜型とは？その判定方法」，「朝型・夜型タイプと運動」，「ウェアラブル端末を使った朝型夜型タイプ別の運動方法」などについて非常に分かり易くクイズなども交えて話がありました。また，途中で実際に朝方・夜型のアンケートに参加者が記入し，それぞれがどのタイプ（バランス型，朝方，夜型）になるのか診断を行いました。

後半の意見交換会では，用語に関する質問や参加者の方の実際の業務等に関わるような質問や意見がでて和気あいあいとした雰囲気です，本学教員と地域ステークホルダーの方々との交流が行われました。

教員との後日面談にも多くの方にお申し込みいただき，今後は具体的に何らかの連携に発展する可能性もあります。

プログラム	
15:00～	ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラムの開発
16:00～	意見交換・ディスカッション
17:20	終了



2-1-6 平成 29 年度しまね地域 MOT セミナー「MOT マーケティングセミナー」

日時：平成 29 年 11 月 17 日(金)9:30～16:30

会場：浜田合同庁舎 5 階 中会議室

主催：島根大学産学連携センター，島根県，公益財団法人しまね産業振興財団

共催：島根県立大学，浜田市

【概要】

島根大学産学連携センターでは，島根県内の関連機関と連携し 11 年前から「しまね地域MOTセミナー」として開催してきました。

今年度 2 回目となる今回は，新規事業の創出にかかわるマーケティングについて，基本的な考え方や成功するための実践的な方法論など，講義，事例，演習を通して学べる「MOT マーケティングセミナー」を開催し，島根県西部を中心に，島根県立大学の学生を含め，16 名の受講がありました。

まず，(株)テクノ・インテグレーション の出川 通 代表取締役（産学連携センター 客員教授）から「見えないマーケットニーズを明確にし，新事業につなげる手法」についての講義がなされました。

続いて，島根県立大学の田中ゼミの学生から，浜田市の企業と取り組んでいる水産加工品の開発についての事例紹介がありました。

その後，受講者がグループに分かれて，①顧客の想定，②顧客のベネフィットに関するグループ討議を行い，理解を深められるように進めました。グループ討議では，参加者間の交流が活発に行われました。



出川 通 氏による講義



島根県立大学の学生による事例紹介



グループ討論



グループ発表

2-1-7 技術コミュニティラボ 勉強会

日時：平成 29 年 12 月 18 日(月)

会場：島根大学産学連携センター 2 階

【概要】

技術コミュニティラボ 第 2 回ミーティング「ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラムの開発」に参加した企業や関連する分野の教員などを中心に、健康分野に関する勉強会を開催しました。



それぞれの自己紹介の後、健康分野におけるフリートークを行いました。

具体的には、「地元の番茶とカテキンの健康における役割」、「運動と食事の相乗効果」、「運動（健康）における教育の重要性」、「足首の柔軟性と健康の関連性」、「音楽が人間のモチベーションや行動に与える影響」、「運動の継続性」、「ヘルスケアと観光の融合」、「松江市におけるウォーキングコース」などといった健康に関わる非常に広範な領域において情報が交わされました。

今後、観光とヘルスケアを結びつけた分野を、重点的に取り上げることが決まりました。

2-1-8 平成 29 年度しまね地域 MOT セミナー

「未来の顧客価値を創出するためのロードマップ作成の基礎と実践的活用法」

日時：平成 30 年 1 月 18 日(木)10:30～17:30

会場：安来商工会議所 会議室

主催：島根県、公益財団法人しまね産業振興財団、島根大学産学連携センター

後援：島根特殊鋼関連産業振興協議会、安来商工会議所

【概要】

産学連携センターでは、島根県内の関連機関と連携し、11 年前から「しまね地域 MOT セミナー」を開催しています。

今年度 3 回目となる今回は、初めてロードマップをテーマに行いました。対象を特殊鋼関連の企業に限定し、受講者は関係者を含め 12 名でした。

ロードマップは、不確実・不連続のイノベーション時代において、新しい顧客価値を創り事業を成功させるためにビジョンを明確にし、未来のシナリオ仮説を作って関係者間で共有するためのツールであり、道標にもなるもので、多様化が進む現代において事業展開を進めていくためには不可欠なツールです。

当日は、講師の出川 通 氏（株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役，島根大学 産学連携センター 客員教授）から、「未来の顧客価値を創出するためのロードマップ作成の基礎と実践的活用法」についての講義がなされました。

具体的には、ロードマップはなぜ必要か、ロードマップ策定と事業構想プロセスについて、事業戦略とロードマップの融合と統合化について、ロードマップの事例と活用紹介、ロードマップの検証と MOT マーケティングについて解説されました。

講義の途中、受講者自身でロードマップを作成する演習を行いました。不明な点を浮き彫りにし、質疑応答を通して、理解を深めていただきました。



2-1-9 技術コミュニティラボ第3回ミーティング「データサイエンスの活用と機械学習」

日時：平成30年2月6日(火)14:00～16:00

会場：島根大学産学連携センター 2階 研修室

主催：島根大学，島根県

【概要】

第3回ミーティングでは、「データサイエンスの活用と機械学習」というタイトルで、本学総合理工学研究科の白井匡人 特任助教に情報提供して頂き、機械学習やデータサイエンスに興味をもつ地元企業、銀行、本学の学生や教員、自治体、支援機関のメンバーなど計29名の参加がありました。



白井特任助教からは、「データサイエンスとは?」、「データサイエンスの利用」、「意思決定支援」、「ビッグデータ」、「情報統合・知識共有」、「ビッグデータ分析の注意点」、「機械学習」、「トピックモデルによる潜在的なトピックの推定」、「深層学習」、「文書要約」、「画像認識」、「音声認識」、「知識の転移」などについて非常に分かり易い説明がありました。

後半の意見交換では、実際の業務に関わる質問や機械学習の現場への適応について質問がでたり、補足説明があったりと和気あいあいとした雰囲気の中で、本学教員と地域ステークホルダーの方々との交流が行われました。

プログラム	
14:00～	情報提供（島根大学総合理工学研究科 白井匡人 特任助教）
15:00～	意見交換・ディスカッション
16:00	終了

2-2 後援事業

産学連携を促進するためには、研究紹介をすると共に、学内の教員と産業界の方々が知り合う機会も非常に重要です。

当センターでは、このような機会をできるだけ多く設けるため、関連する機関と連携し、様々な事業を進めています。

平成 29 年度に後援した事業について以下に紹介します。

2-2-1 産学連携学会 関西・中四国支部 第 9 研究・事例発表会

日時：平成 29 年 11 月 29 日(水)13:30～17:00, 30 日(火)9:30～11:40

会場：徳島大学 産学官連携プラザ 3 階 日垂ホール

主催：産学連携学会 関西・中四国支部

共催：徳島大学 研究支援・産官学連携センター

後援：島根大学産学連携センター、他

【概要】

産学連携学会 関西・中四国支部 研究・事例発表会は、地域が共有する課題を解決し、産学連携の促進に向けて産学連携の事例や研究成果について情報交換を行い、かつ、地域内の会員の交流を深めるために、当該エリアの方々が気軽に産学連携の事例の紹介や様々な研究の発表ができるように企画されたものです。



第 9 回となる今回は、徳島大学で開催され、当センターから北村寿宏 教授と小金民造 客員教授が参加しました。北村教授は、後援機関として、発表会、情報交換会の準備、運営に全面的に協力しました。

今回の発表会では、18 件の事例や研究紹介が行われました。

参加者は 33 名で、支部エリア内だけでなく、北海道や富山からの参加もあり、関心の深さが伺われました。

各発表での質疑は非常に活発で、参加者の情報交換や交流が促進されました。

発表は、産学連携の事例や各種関連データの分析など幅広い内容で、地域との連携や学生教育などの発表も増えてきており、産学連携の広がりを感じることができました。またそれらの内容も非常に興味深いものが多く、今後の産学連携活動の参考になりました。

1 日目の発表会の後には情報交換会があり、発表会では足らなかった議論の続きが行われました。

2-3 イベント等での研究シーズ発信

産学連携の促進のために、全国で様々なイベントなどが行われています。

当センターでは、本学の研究成果や研究シーズを紹介する目的で、様々なイベントなどに参加しています。平成 29 年度に参加したイベントなどについて、以下に紹介します。

2-3-1 DX Innovation Forum Season.1 in 岡山

日時：平成 29 年 6 月 19 日(月)12:00～17:55, 20 日(水)8:50～18:00

会場：ホテルメルパルク岡山

主催：ダイワボウ情報システム株式会社

【概要】

平成 29 年 6 月 19 日(月)～20 日(火)に、ホテルメルパルク岡山で開催された、DX Innovation Forum Season.1 in 岡山に、生物資源学部の米 康充 准教授が、森林・林業へのドローン・写真測量の活用をテーマに出展しました。

このイベントは、ダイワボウ情報システム株式会社が主催しており、IoT・AR/VR・クラウド・ドローンを中心に、イノベーションマッチングを目的としたもので、参画企業・大学・団体を中心に、それぞれが能動的にディスカッション・対話式ショートセッション、ブースによる個別マッチングに参加し、双方向でコンタクトを持ち、地域課題解決と新規ビジネスモデル創出へと結びつけるといったコンセプトを持っています。

当日は、島根大学のブースにも多くの企業の方に訪れていただき、大変有意義な交流を持つことができました。

また産学連携センターの服部大輔 准教授も参加し、展示をサポートするとともに、企業ニーズや産学連携活動などの情報収集を行いました。



2-3-2 イノベーション・ジャパン 2017—大学見本市

日時：平成 29 年 8 月 31 日(木)9:30～17:30, 9 月 1 日(金)10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 東1・4 ホール

主催：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

国立研究開発法人科学技術振興機構

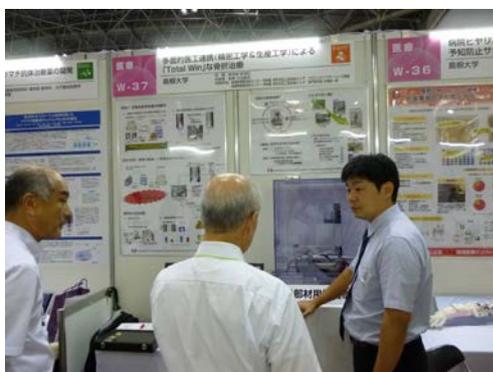
【概要】

平成 29 年 8 月 31 日(木)～9 月 1 日(金)に、大学と産業界が持つ技術シーズとニーズの発見・出会いを目的とした国内最大級のマッチングイベントである「イノベーション・ジャパン 2017—大学見本市」が、東京ビッグサイトで開催されました。

今年は、情報通信、ライフサイエンス、医療、装置・デバイス、ナノテクノロジー、環境保全・浄化、低炭素・エネルギー、マテリアル・リサイクル、シニアライフ（高齢社会）、防災の計 10 分野から 500 件を超える大学などの研究最先端シーズが展示説明され、各大学の研究シーズや産学連携への取り組みの一端を感じることができました。

島根大学からは、医学部の今出助教の研究グループが「多面的医工連携（精密工学 & 生産工学）による「Total Win」な骨折治療」について、また、当センター地域医学共同研究部門の中村守彦 教授が「病院ヒヤリハットの横綱・点滴事故の予知防止サポーター」について出展し、産学連携での実用化成果を紹介しました。企業の方を中心に多くの関係者の方に興味を持っていただけ、PR できました。

当センターからは、北村寿宏教授、小金民造客員教授も参加しました。



医学部 今出助教の展示の様子



地域医学共同研究部門 中村教授の展示の様子

2-3-3 アグリビジネス創出フェア 2017

日時：平成 29 年 10 月 4 日(水)～6 日(金)10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 東 7 ホール

主催：農林水産省

【概要】

アグリビジネス創出フェアは、全国の産学の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関間や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する「技術交流展示会」です。

本学からは、「農林水産の六次産業化プロジェクトセンター」と「健康機能性米」「エゴマ油粉末プロジェクト」が出展説明やプレゼンテーションを行い、これまで取り組んできた研究成果やその成果から実用化された柿ドリンク、GABA 強化米、エゴマ油の粉末化などについて紹介しました。非常に多くの方が訪れ、関心を持っていただけました。

産学連携センターからは、北村寿宏 教授、服部大輔 准教授、小金民造 客員教授が参加し、研究シーズを紹介するとともに各大学の産学連携活動などの情報収集を行いました。

島根大学からの出展

■島根大学 エゴマ油粉末プロジェクト

(生物資源科学部 吉清恵介 助教)

オメガ3脂肪酸に富む「エゴマ油」を粉末にして酸化安定性と体内吸収性を向上させた点をピーアールしました。



展示ブースの様子

■島根大学生物資源科学部（生物資源科学部 赤間一仁 教授）

健やかな健康長寿社会を実現する夢の健康機能性米：GABA 強化米の開発について紹介しました。



ショートプレゼンテーションの様子

■（国）島根大学 農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター

(生物資源科学部 松本敏一 教授)

島根大学の六次産業化商品や食品シーズと研究取組み（出雲おろち大根、いも焼酎「神在の里」、西条柿ドリンク「晩夕飲力」、エゴマ関連商品、加圧玄米関連商品、ドライフルーツ等）を紹介しました。



展示ブースの様子



ショートプレゼンテーションの様子

2-3-4 第7回おおた研究・開発フェア

日時：平成29年10月26日(木)、27日(金)10:00～17:00

会場：大田区産業プラザ（P i o）1F大展示ホール

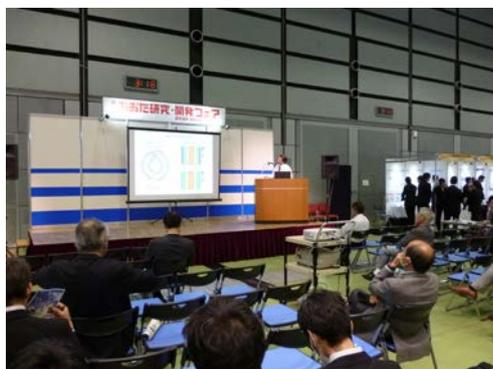
主催：大田区、公益財団法人大田区産業振興協会

【概要】

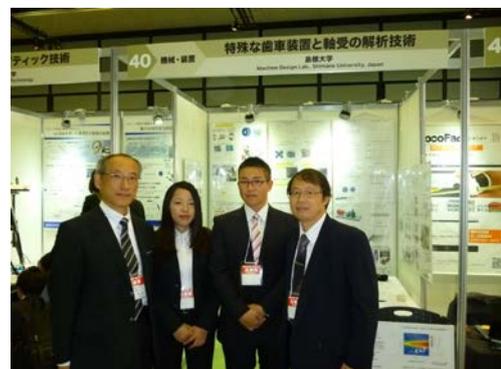
モノづくりのまち「大田区」において、学術分野と産業界の技術シーズとニーズの交流の場となる展示会「第7回おおた研究・開発フェア」が開催されました。91の企業や大学、機関（企業等44社、大学・高専・研究機関41団体、その他6団体）が展示出展を行い、それぞれ最新の研究開発成果や新製品、新技術が紹介されました。多くの来場があり、賑やかでした。

島根大学からは、総合理工学研究科の李樹庭准教授が「特殊な歯車装置と軸受けの解析技術」をテーマに出展し、産業ロボット関節用精密減速機的设计・性能解析技術、航空・宇宙開発用薄肉歯車と波動歯車装置的设计・性能（強度・振動・騒音）解析技術、転がり軸受け接触問題の有限要素法解析偽重油などについて紹介しました。ものづくり企業の方など多数の来訪者があり、研究成果をPRできました。

産学連携センターからは、北村寿宏教授が参加し、李准教授の展示をサポートすると共に、企業ニーズや各大学の産学連携活動などの情報収集を行いました。



ショートプレゼンテーションの様子



展示ブースの様子

2-3-5 DIS 「ICT EXP02017in 山陰」

日時：平成 29 年 11 月 7 日(火)9:30～17:30

会場：くにびきメッセ 大展示場

主催：DIS（ダイワボウ情報システム株式会社）

【概要】

最新の ICT ソリューションが体感できる DIS（ダイワボウ情報システム株式会社）主催の総合展示会「ICT EXP02017in 山陰」が松江市で開催され、本学教員もパネルディスカッション及び展示を行いました。

パネルディスカッション「農林水産革命！ICTがもたらすイノベーション」

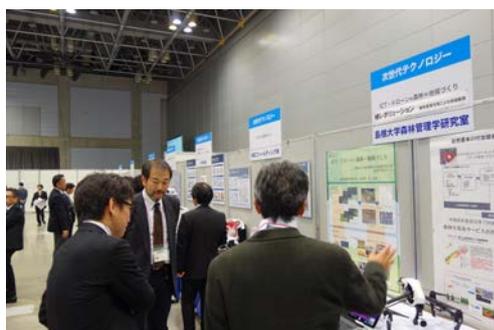
モデレーター：生物資源科学部 地域環境科学科 谷野 章 教授

インテル株式会社，愛媛大学，播磨屋林業株式会社，株式会社セラクといったメンバーから，砂栽培管理システム，宇和島海における IoT を活用した漁業情報提供システム，ドローンを用いた林業，ICT 活用による管理型農業システムなどについてそれぞれ情報提供があり，谷野教授の司会によりこれらの情報提供にもとづいて活発な議論が行われました。



出展：次世代テクノロジー「ICT・ドローン×森林＝地域づくり」

島根大学 森林管理学研究室（生物資源科学部 農林生産学科 米 康充 准教授）



フリーの地理情報システム (GIS) を用いた森林 GIS 構築や時系列航空写真やドローンを用いた森林資源計測研究を通じた地域林業支援活動の紹介をしました。さらには，これら情報システムを用い，地域固有の森林資源を活かした持続可能な地域づくり事業として，椿産業振興の提案を行いました。

2-3-6 メッセナゴヤ 2017

日時：平成 29 年 11 月 8 日(水)～11 日(土)

8 日－9 日 10:00～17:00, 10 日 10:00～18:00, 11 日 10:00～16:00

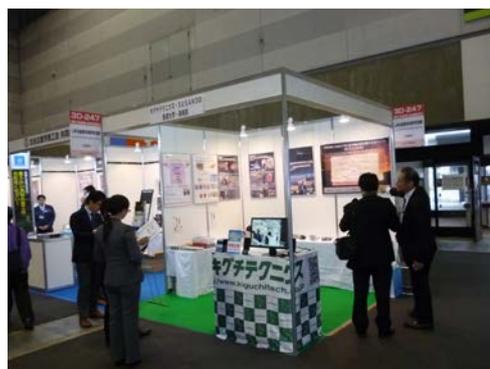
会場：ポートメッセなごや

主催：メッセナゴヤ実行委員会（構成団体：愛知県，名古屋市，名古屋商工会議所）

【概要】

メッセナゴヤは，平成 18 年にスタートし，業種・業態の枠を越えて出展者が持ちよる製品やサービスを国内外に広く情報発信し，販路拡大や人脈形成を図る「異業種交流の祭典」です。

今回，44 都道府県から約 1400 の企業や機関が，それぞれ最新の研究開発成果や新製品，新技术を紹介する中，島根大学も，キグチテクニクス，SUSAN00，島根県と連携し「しまね金属材料産学官連携グループ」として初めて出展・展示を行い，本学は当センターの大庭卓也センター長と北村寿宏 教授が島根大学の産学連携や共同研究講座の紹介を，キグチテクニクス，SUSAN00，島根県は，特殊鋼関連での技術開発や販路拡大に向けた取組事例を紹介しました。



2-4-7 しまね大交流会

日時：平成 29 年 11 月 18 日(土)13:00～17:00

会場：くにびきメッセ大展示場

【概要】

平成 29 年 11 月 18 日(土)に、松江市のくにびきメッセにおいて、「しまね大交流会」が開催されました。

産学連携センターもブースを出展し、訪れた企業関係者や大学教員などに対して産学連携に関する説明やシーズ集の配布などを行いました。

今年は、約 2,200 名の参加があり、その中で学生参加は 1,200 名と、大盛況でした。

服部大輔 准教授は、実行委員として初期の準備段階から携わるとともに、当日は赤いハッピーを着て、地域未来戦略センターや他のボランティアのメンバーらと共に来場客を案内したり質問に答えたりするコンシェルジュとしても貢献しました。

また、服部准教授の受け持っている、共通教育授業「実例ビジネス開発論」を受講している学生も授業の一環として参加し、島大オリジナルブランドの商品開発の調査を目的に、出展している地域企業への聞き取りを実施しました。



2-4 他機関との連携促進・技術動向に関する情報収集活動

産学連携を円滑に効果的に進めるためには、ネットワークが非常に重要です。

当センターでは、様々な機会を利用し、全国の大学とのネットワーク、産学連携従事者間のネットワーク、産学連携に携わっている各機関とのネットワークを構築し、つながりを深めるために研究会や学会、その他会議に参加しています。

平成 29 年度に行った連携活動について、以下に紹介します。

2-4-1 平成 29 年度中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議

日時：平成 29 年 5 月 31 日(水)14:00～17:00

会場：岡山大学 本部棟 6 階 第 1 会議室

【概要】

中国地域産学官連携コンソーシアムの平成 29 年度運営会議が開催され、本学から松下幸之助 教授が出席し、平成 28 年度事業の報告（外部評価委員会報告含む）、及び、平成 29 年度の事業計画等の協議と意見交換を行いました。

2-4-2 産学連携学会第 15 回大会

日時：平成 29 年 6 月 15 日(木)10:00～18:00、16 日(金)9:00～16:15

会場：栃木県総合文化センター

【概要】

産学連携学会の定期大会である第 15 回大会が開催され、北村寿宏 教授、中村守彦 教授、松下幸之助 教授、服部大輔 准教授、小金民造 客員教授が参加しました。

特別講演やシンポジウム、約 150 件の研究成果の一般講演やポスターセッションが行われ、400 名を超える参加者があり盛況でした。



北村教授は「地方大学における産学共同研究の実状解明の実証的研究」について 4 テーマ、中村教授は「医療現場の『夢』を早期実現する「やさしい医工連携」のススメ」について、服部准教授は「四国酒まつり」における成功要因分析および産学連携について発表しました。

また北村教授は、セッション「産学連携特論 3」の座長も務めました。

2-4-3 第9回コラボ産学官通常総会

日時：平成29年6月21日(水)15:00～17:00

会場：コラボ産学官プラザ in TOKYO 5階会議室

【概要】

コラボ産学官による第9回通常総会が開催され、大庭卓也センター長の代理として、小金民造 客員教授が出席しました。

第1号議案から第4号議案までの議案を審議した結果、すべて承認されました。

2-4-4 近畿大学工学部 産学官連携推進協力会 総会・記念講演会・技術発表会

日時：平成29年6月22日(木)16:00～19:00

会場：ホテルセンチュリー21 広島

【概要】

近畿大学工学部の産業界・行政機関・行政関係外郭組織・近隣の大学等の他金融機関との連携に関する「産学官連絡推進協議会」による、記念講演会・技術発表会に、楠田和身 客員教授が参加し、リクルートに関する講演、また企業の研究開発の事例発表を聴講しました。

また交流会では、当協力会の運営の仕方、会員企業等との交流の在り方を学び、当日の参加者へ当センターのPRや名刺交換を行いました。

2-4-5 第6回産学連携意見交換会

日時：平成29年7月6日(木)16:00～17:30

会場：島根大学総合理工学部2号館2階会議室

【概要】

平成29年7月6日(木)に、島根大学総合理工学部2号館2階会議室において「第6回産学連携意見交換会」が開催され、産学連携に関わる島根大学の若手教員、島根県職員、産学連携センターから大庭卓也 センター長（オブザーバー）と服部大輔 准教授の計12名が参加しました。



今回は、総合理工学研究科 情報システム学領域の廣富哲也 准教授より、研究テーマであるハンディーキャップのある人への支援システムおよび産学連携に関しての具体的な体験談についての情報が提供されました。その後、約1時間で提供された情報を元に、参加メンバーの間で活発な議論や意見交換が行われました。

2-4-6 平成 29 年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議

日時：平成 29 年 7 月 7 日(金) 14:00～17:50

会場：愛媛大学校友会館 2 階サロン

【概要】

平成 29 年 7 月 7 日(金)に、愛媛大学の当番により、愛媛大学校友会館で「平成 29 年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議」が開催され、本学からは、北村寿宏 教授が出席しました。



会議には、中国・四国地区の国立大学法人で産学連携を推進しているセンターや機構の、センター長や教員、担当事務スタッフなど約 35 名が出席しました。

愛媛大学の仁科弘重理事（社会連携・渉外担当副学長）による開会挨拶の後、文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室長補佐の佐々木義尚 氏が「オープンイノベーション時代の本格的な産学連携に向けて」と題して講演され、国立大学を取り巻く財政状況や産学連携に関する実状、現在進めている文部科学省における取り組みを紹介されました。

続いて、経済産業省 四国経済産業局 地域経済部長の金谷明倫 氏が「四国地域の経済概要と産学官連携の取組」と題して講演され、四国地方の経済動向や産学連携の促進の取り組みなどを紹介されました。

その後、「地方創生としての新産業創出における大学の取り組みについて」をテーマに各大学から、新産業創出や地域産学連携を推進する取り組み、地域ネットワークの構築についての取り組み状況について紹介し、意見交換をしました。

来年は、広島大学が当番校として開催される予定です。

2-4-7 中国地域産学官コラボレーション会議 第 16 回全体会議

日時：平成 29 年 7 月 12 日(水) 13:00～13:50

会場：くにびきメッセ 1 階小ホール

【概要】

中国地域の産学官連携を推進するために結成され、中国地域の主要な産（金）・学・官メンバーで構成されている、中国地域産学官コラボレーション会議の全体会議が行われ、服部大輔 准教授が出席しました。

2-4-8 中国地域産学官コラボレーションシンポジウム「地域イノベーション創出 2017in しまね」

日時：平成 29 年 7 月 12 日(水)14:00～17:10

会場：くにびきメッセ 3 階国際会議室

【概要】

平成 29 年 7 月 12 日(水)に、中国地域産学官コラボレーションシンポジウム「地域イノベーション創出 2017in しまね」が松江市のくにびきメッセにおいて開催され、北村寿宏 教授，松下 幸之助 教授，服部大輔 准教授が参加しました。

島根県副知事，島根大学 服部泰直 学長，中国経済連合会会長より挨拶があった後，基調講演として(株)ユーグレナの永田暁彦 取締役から，「リアルテックベンチャー」が地域から世界を変える」というタイトルで発表がありました。

その後，島根県内における大学発ベンチャーの具体的な取組事例として，山陰合同銀行の宮本立史 氏および，本学の 2 名の教員より発表がありました。

まず医学部生命科学講座の松崎有未 教授から，「超高純度人間葉系幹細胞 REC を用いた臨床・創薬の展望」と題した発表があり，幹細胞を用いた再生医療に関わる大学発ベンチャーPuREC（株）の事例の紹介がありました。

次に生物資源科学部附属生物資源教育研究センター農業生産科学部門の松本真悟 教授から，「中海から回収される海藻の有機質肥料としての利用価値」と題して，中海から取れる海藻を用いた肥料を販売する大学発ベンチャー（株）なかうみ海藻のめぐみについての発表がありました。

中国地域における産学官連携に携わる多くの方にご来場頂き，盛況のうちに終了しました。

また，服部大輔 准教授は，準備段階から携わると共に，当日の会場設営や運営にも協力しました。



松崎有未 教授



松本真悟 教授

2-4-9 平成 29 年度島根県産業技術センター研究成果発表会

日時：平成 29 年 7 月 27 日(木)13:00～16:25

会場：テクノアークしまね 4 階大会議室

【概要】

島根県産業技術センターによる平成 29 年度研究成果発表会が開催され、北村寿宏 教授が参加しました。当日は、8 件の研究成果が発表されました。

- ・アカメガシワ葉の機能性—脂質代謝と皮膚機能の改善効果への期待—
- ・新規乾燥助剤の開発
- ・味覚センサーを用いた清酒の客観的評価技術
- ・石州瓦屋根の断熱・遮音性能
- ・ヒューマンインタフェース技術開発の取り組み
- ・電磁波遮蔽溶射皮膜の開発について
- ・印刷技術とセンサデバイスの開発

2-4-10 第 4 回 GO-YEN セミナー 医工連携によるロボッロビジネスの挑戦

日時：平成 29 年 8 月 21 日(月)15:30～17:00

会場：東出雲工業団地会館

【概要】

第 4 回 GO-YEN セミナーにおいて、成長著しい医療機器市場から県内企業参入の支援、医療、福祉現場が直面する課題とその解決に向けて取り組んでいる株式会社 MICOTO テクノロジー 代表取締役社長 檜山康明 氏による公演が、医工連携によるロボッロビジネスの挑戦「医療用ロボット・生活支援ロボットの実用化に向けた研究・開発そして製造販売へ」をテーマに行われ、当センターから松下幸之助 教授と服部大輔 准教授が参加しました。

2-4-11 文部科学省シンポジウム「オープンイノベーション共創シンポジウム」

日時：平成 29 年 8 月 31 日(木)13:00～16:00

会場：東京ビッグサイトレセプションホール A

【概要】

文部科学省による「オープンイノベーション共創シンポジウム」が「本格的産学連携による世界に打ち勝つ革新的イノベーション創出に向けて」をテーマに開催され、当センターから北村寿宏 教授が参加しました。

このシンポジウムでは、名古屋大学からオープンイノベーションを進めるための大学の取り組みの紹介が、また、文部科学省から政策報告がありました。

その後、パネルディスカッションとして、各界から招かれた有識者がパネリストとなり、イノベーションの創出に欠かせない大学・研究開発法人の意義・役割を振り返るとともに、「本格的産学連携の実践に向け、特色ある組織対組織の連携を図るための好事例や取組方策の紹介を交えながら、次代の我が国の革新的技術開発を支えることとなるオープンイノベーションの在り方などについて議論が行われました。

今後、オープンイノベーションが必要になるのは間違いがなく、本学についても、オープンイノベーションの創出に向けての検討を行い、仕組みなどの整備が必要であると感じました。

2-4-12 徳島県職員研修「産学民官の合意形成による政策連携」

日時：平成 29 年 8 月 31 日(木)

会場：徳島県自治研修センター講堂

【概要】

平成 29 年 8 月 31 日、徳島県自治研修センター講堂において、当センターの服部大輔 准教授が、「産学民官の合意形成による政策連携～現場監督型人材の育成を目指して～」と題し、主任主事級の若手職員 106 名に対して講義（90 分）及びワークショップ指導（3 時間）を行いました。



今回、は技術士資格を持つ県職員との「デュアルティーチング」方式を採用し、「熱帯林再生プロジェクト」や「低炭素社会構築のための実証試験とコンソーシアム運営」、「外部資金の活用」、「スーパーバイザーの役割」など、豊富な事例解説や行政部局側の事情などを交えて講義・演習を行いました。

この講義・演習には徳島県の若手職員も高い関心を示し、講義後も服部准教授に対して研修生である県職員からの質問が相次ぎ、好評のうちに終了しました。

2-4-13 第1回人間科学研究フォーラム

日時：平成29年9月8日(金)14:30～17:30

会場：島根大学松江キャンパス 教養講義室棟2号館4階702講義室

【概要】

人間科学部では、年2回の人間科学研究フォーラムの開催を予定しています。

その1回目となる今回は、「人間がその人らしく生きるための人間科学—人間科学部の始動—」をテーマに開催され、服部大輔 准教授が参加しました。

筑波大学人間系の原田悦子 教授による基調講演「心理学から考える使いやすさのデザイン：超高齢社会での挑戦」と、本学の教員3名から話題提供がありました。

- ・心理学コース：佐藤鮎美 講師「赤ちゃんの発達とメディア」
- ・福祉社会コース：足立孝子 助教「初回エピソード統合失調症の認知社会機能」
- ・身体活動・健康科学コース：
辻本健彦 講師「地域住民に対する生活習慣改善のサポート」

2-4-14 東日本リエゾンカンファレンス2017 in 弘前

日時：平成29年9月14日(木)16:00～19:20, 15日(金)9:30～12:20

会場：14日 土手町コミュニケーションプラザ,

15日 国立大学法人弘前大学 コラボ弘大8階 八甲田ホール

【概要】

産学連携や地域活性化の活動に関する共通の課題やテーマ等について、研究及び事例報告を行う「東日本リエゾンカンファレンス2017 in 弘前」が9月14日、15日に弘前市で開催され、北村寿宏 教授が参加しました。

このカンファレンスは4回目となり、今回は「地方における産学官金連携」をメインテーマに開催されました。

1日目は3件の講演があり、その後、情報交換会が開かれました。地元を中心に関東、東北、北海道から約100名が参加しました。

講演は、次の3つが行われました。

①「困ったときの解決策 私の経験から ためらいをすてて・・・」と題して、株式会社津軽バイオマスエナジーの奈良 進 代表取締役が、バイオマス発電事業を進める上で、問題が出たときには弘前大学に相談に行き、様々な問題を一緒に解決してきた事例を紹介されました。

②「弘前大学から始まったプロテオグリカン産業化の奇跡と展望」と題して、地域イノベーション戦略支援プログラムの阿部 馨 プロジェクトディレクターが、弘前大学の研究シーズから始まったプロテオグリカンの産業化について、成功事例として紹介されました。

③「地域イノベーションシステムとしての学官連携プラットフォームの試み」と題

して、山形大学 学術研究院（大学院理工学研究科主担当）の小野浩幸 教授が、大学と地域の金融機関が連携して地域産業の活性化を進めている事例を紹介されました。

2日目は産学連携の活動や取り組みに関する「研究・事例発表」が行われ、約40名が参加しました。

東北や北関東、北海道などでの取り組み事例8件が報告され、内容は、PBL、雇用促進、地域活動、クラウドファンディングなど多岐にわたり、各地で様々な取り組みが行われていることがわかりました。本学での活動や取り組みの参考にしていきたいと思います。

2-4-15 徳島県職員研修「知識創造社会の構築に向けて」

日時：平成29年9月19日(火)

会場：徳島県自治研修センター講堂

【概要】

平成29年9月19日(火)、徳島県自治研修センター講堂において、当センターの服部大輔 准教授が、「知識創造社会の構築に向けて～航空交通を活用した地方創生～」と題し、今年度採用された徳島県の新規採用職員144名を前に、講義・演習を計120分行いました。

現在全国にある地方空港施設は朝晩を除き旅客・貨物ともに十分な輸送能力があり、MICEや商品開発を積極的に進めるとともに、国内外の地方空港と結びつくことで、最終的には知識やサービスが集約された「ナレッジリージョン」を創出していくという、服部准教授の講義内容は、「航空交通」・「地域イノベーション」・「ネオツーリズム」・「マッチング」など新規採用職員にもインパクトのあるキーワードを含むものであり、研修生も極めて高い関心を示していました。



2-4-16 第30回国立大学法人共同研究センター等教員会議

日時：平成29年9月21日(木)13:20～17:30, 22日(金)9:30～12:20

会場：穂の国とよはし芸術劇場PLAT

【概要】

全国の国立大学に設置されている産学連携を担当している組織の教員が集まり、情報交換や意見交換を行う「国立大学法人共同研究センター等教員会議」に当センターから北村寿宏 教授と中村守彦 教授が出席しました。

第30回となる今回は、豊橋技術科学大学の当番により開催され、全国から共同研究センター等の教員約50名が集まり、様々な意見交換や議論を行いました。

1日目の全体会議では、文部科学省の村瀬剛太 氏（産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室長）による「本格的な産学連携による共同研究拡大に向けた取組について」と題する基調講演が行われ、オープンイノベーションの創造に向けた大学の役割や施策、平成30年度の概算要求の概要について、その概要が紹介されました。

また今回は、「財源多様化および本格的な産学連携に向けた体制づくり」と題して3つの分科会（分科会1：研究力の強化につながる産学連携の推進、分科会2：外部資金の獲得に向けた取り組み、分科会3：地域産学連携の取組と産学連携人材の確保）が行われました。

北村教授が出席した分科会2では、共同研究の大型化や産学連携の運営・管理における事例や実務上の課題について議論されました。金沢大学からは創薬分野のオープンイノベーションの取組を、広島大学からは産学官連携の取組や、人事交流、人材雇用の確保などについて、本学からは共同研究講座の設置の取組とその問題点について事例を紹介しました。その後、各大学との意見を交換しました。

二日目は、分科会で継続して議論しました。その後、全体会議で、各分科会でのまとめを紹介して議論し、情報を共有しました。

次回（来年）は、電気通信大学の当番で行われる予定です。

2-4-17「安全保障技術研究・研究者倫理」に関するシンポジウム

日時：平成29年9月26日(火)14:00～

会場：島根大学 松江キャンパス 大学ホール

【概要】

島根大学において検討し原案を作成した、研究活動に関する行動指針（案）及び安全保障技術研究の申請時に係る審査体制（案）について、研究者の社会的使命、研究者倫理の観点から問題提起を行い議論することを目的としたシンポジウムが開催され、大庭卓也 センター長、北村寿宏 教授、松下幸之助教授が参加しました。

2-4-18 第 29 回国立大学法人共同研究センター長等会議

日時：平成 29 年 9 月 28 日(木)14:00～20:00, 29 日(金)9:00～12:00

会場：秋田ビューホテル

【概要】

平 29 年 9 月 28(木), 29 日(金)に秋田ビューホテルで開催された第 29 回国立大学法人共同研究センター長等会議に大庭卓也 センター長と北村寿宏 教授が出席しました。

この会議には、全国の国立大学法人に設置されている共同研究センター等のセンター長、専任教員、担当事務など約 150 名が出席しました。

1 日目には、文部科学省の村瀬剛太 氏（文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室長）による、「文部科学省における産学連携の取組について」と題する基調講演があり、本格的な産学連携によるオープンイノベーションの促進や概算要求項目などの紹介がなされました。

基調講演に続き、今回の全体テーマである「オープンイノベーション時代の産学連携活動の拡大・深化」について情報交換、議論がなされました。

まず、東北大学の矢島敬雅 理事（産学連携担当）から、「オープンイノベーション時代における産学連携の組織力強化ー東北大学の産学連携強化に向けた取り組みー」をテーマにキーノートスピーチがあり、東北大学におけるオープンイノベーション促進の取組が紹介されました。

次に、山口大学から「山口大学における知的財産教育を活用した人材育成の取組」をテーマに、京都大学から「指定国立大学法人構想における産学官連携の「京大モデル」」をテーマに取組事例紹介がありました。

最後の全体セッション1「自助自立が可能な産学連携組織を形成するための重要な視点とは」では、先進事例として、北海道大学、筑波大学、新潟大学、宇都宮大学、三重大学、電気通信大学から各大学の取り組みが紹介され、大型研究費の獲得や、直接＝間接経費の問題などについて、意見を交換しました。

2 日目は、まず地元企業から、株式会社秋田今野商店の今野 宏 代表取締役社長による「産学連携が生み出すビジネスチャンス」と題する講演があり、麹菌をベースにした研究開発、事業展開、産学連携について紹介されました。

続いての、全体セッション2「変容する社会が産学連携組織へ期待する機能とは」では、熊本大学、鹿児島大学、富山大学、岡山大学、広島大学、帯広畜産大学の6大学と文部科学省をパネラーとしてパネルディスカッションが行われ、産学連携に関する体制や人材確保などの取り組みが紹介され、議論が交わされました。

2-4-19 とくしま先進政策講座 第1回「水素社会」

日時：平成29年11月22日(水)9:25～16:45

会場：徳島県自治研修センター講堂

【概要】

平成29年11月22日、当センターの服部 大輔 准教授が、徳島県自治研修センター講堂において開催された「とくしま先進政策講座 第1回「水素社会」へ、アンカーとして参加しました。



服部准教授は、徳島県自治研修センターと協働で約6時間にわたるプログラムのプロデュースを行うとともに、参加した徳島県職員、地域企業、技術士会のメンバーらに対して30分の情報提供や後半の意見交換会におけるファシリテーションや講評などを行いました。

この講座では、前半に、服部准教授の他に、九州大学水素エネルギー国際研究センターの林 灯 教授、高砂熱学工業株式会社イノベーションセンター技術研究所の加藤 敦史 主査、環境省 中国四国地方環境事務所 環境対策課の原田幸也 課長、徳島県 自然エネルギー推進室の内海はやと 室長補佐、阿南工業高等専門学校に加藤研二 准教授から、それぞれ水素社会構築に関する情報提供がありました。



後半では、徳島大学 上勝学舎の澤田俊明 客員教授の司会により、「えんたくん」を用いたワークショップがあり、参加したメンバーらが3グループに分かれて水素社会構築に関して様々な意見交換が熱心に行われました。

2-4-20 第4回地域活性学会中国四国支部会合

日時：平成29年12月9日(土)13:30～18:00

会場：岡山大学農学部3号館4階

【概要】

地域活性学会の中国四国支部主催で、フードバンクをテーマにした講演会、および、研究会が開催され、当センターからは北村寿宏教授が参加しました。全体の参加者は、岡山大学などの学生も含め約100名でした。

講演会は、「地域活性化を目指したフードバンクの役割と課題」をテーマに、次の3つの講演と総合討論が開かれました。

- ①「フードバンク岡山の取り組みと地域活性化」
NPO法人フードバンク岡山 石坂 薫 氏
- ②「フードバンクから関わることから見えてきた農村活性化の課題」
JA岡山経営管理委員 藤原 忍 氏
- ③「生活協同組合のフードバンクへの関わりと地域社会づくり」
生活協同組合おかやまコープ組織本部長 上甲啓一 氏

研究会では、次の4の発表がありました。

- ①「地域ブランドのつくりかたとその評価方法」広島経済大学 藤谷則夫 氏
 - ②「地域文化を活用した知的障害者と地域住民の交流拠点の形成に関する研究」
日本社会事業大学大学院生 藤本 優 氏
 - ③「香川ビジネス&パブリックコンペと起業家の育成」香川大学 佐藤勝典 氏
 - ④「平成の未合併自治体における地方創生戦略」岡山大学大学院学生 島川隼輔 氏
- 夕方は懇親会に参加し、地域活性化や産学連携との関わりなどについて、参加者と意見交換を行いました。

2-4-21 島根大学附属図書館「地域コミュニティラボ」開設記念展示 ギャラリートーク

日時：平成30年2月3日(金)12:00～12:30

会場：島根大学附属図書館1階「地域コミュニティラボ」

【概要】

「地域コミュニティラボ」開設記念展示の一環としてギャラリートークが行われ、たたら製鉄だけではない、もう一つの「鉄の島根」の魅力：銑鉄铸件産業の世界を、島根県銑鉄铸件工業組合 理事長（ヤンマーキャステクノ株式会社 常務取締役 松江事業部長）の重親 守 氏が案内され、当センターからは、大庭卓也 センター長、山田容士 部門長、北村寿宏 教授が参加しました。

2-4-22 平成 29 年度 JST 産連事業公聴会

日時：平成 30 年 2 月 14 日(水)13:30～16:30

会場：岡山国際交流センター 7 階多目的ホール

【概要】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による産連事業の公聴会が岡山市で行われ、北村寿宏 教授が出席しました。

当日は、JST の産連部門の事業紹介に始まり、地域バリュープログラムや A-STEP 事業の概要説明がありました。また、平成 30 年度の申請内容の質的向上を目途とした事業内容の改善について意見交換も行われました。

2-4-23 第 2 回人間科学研究フォーラム

日時：平成 30 年 2 月 16 日(金)13:00～16:00

会場：島根大学松江キャンパス 教養講義室 2 号館 4 階 702 講義室

【概要】

人間科学部では、年 2 回の人間科学研究フォーラムの開催を予定しています。

その 2 回目となる今回は、「人々がその人らしく生きるための多面的支援」をテーマに開催され、服部大輔 准教授が参加しました。

川崎医療福祉大学 医療福祉学部の長崎和則 教授による基調講演「川崎医療福祉大学における多職種連携教育の取り組み」と、本学の教員 2 名から話題提供がありました。

- ・心理学コース：野口寿一 准教授
「臨床心理アセスメントを通してみた、若者のメンタルヘルス」
- ・社会福祉コース：加川充浩 准教授
「生活困窮者が有する社会福祉と地域支援の方法」

2-4-24 平成 30 年度科学技術振興機構 事業説明会

日時：平成 30 年 2 月 22 日(木)13:00～15:00

会場：広島大学霞キャンパス医工連携棟

【概要】

科学技術振興機構（JST）が平成 30 年度に計画されている公募事業に関する説明会が開催され、楠田和身 客員教授が参加しました。

2-4-25 平成 29 年度 地域志向教育研究経費 取組報告会

日時：平成 30 年 2 月 22 日(木)9:30～11:30

会場：島根大学松江キャンパス 大学会館 3 階大集会室

【概要】

島根大学 地(知)の拠点整備事業(COC 事業)における、平成 29 年度 地域志向教育研究経費 取組報告会が開催され、11 の報告がありました。

当日は、当センターから北村寿宏 教授と松下幸之助 教授が参加しました。

- ・第 1 報告 総合理工学研究科 小林久高 教授
「出雲地域における伝統的な職人(大工・左官・屋根葺き等)の現存状況調査」
- ・第 2 報告 総合理工学研究科 植田 玲 教授
「島根県西部の地域社会との連携・協力推進の数学的アプローチと地域志向教育の開発」
- ・第 3 報告 生物資源科学部 伊藤勝久 教授
「学生による山村地域調査と振興プランの提案-邑南町羽須美地区を対象に-」
- ・第 4 報告 生物資源科学部 一戸俊義 教授
「島根県益田での大規模畜産企業と連携した専門職人材の現場育成」
- ・第 5 報告 生物資源科学部 江角智也 准教授
「農業六次産業化活動での地域協力の取り組み」
- ・第 6 報告 教育学研究科 橋爪一治 教授
「地域の伝統的な「ものづくり」にある高度加工技術の解明によるイノベーション能力の育成」
- ・第 7 報告 教育学部 作野広和 教授
「地域協創型人材育成拠点「奥出雲ラボ」による地域再生」
- ・第 8 報告 医学部 佐野千晶 准教授
「浜田医療圏における地域課題抽出及び解決プロセスの教育方策の検討」
- ・第 9 報告 医学部 廣瀬昌博 教授
「益田市、川本町における地域包括ケアシステムに関する実践セミナー」
- ・第 10 報告 教育推進センター 鹿住大助 准教授
「全学士課程を対象とした地域志向初年次教育実施体制強化に向けた学生アシスタントの運用と育成」
- ・第 11 報告 法文学部 関 耕平 准教授
「経済ゼミ合同による地域再生に関するフィールドワークの実施と地域還元」

2-4-26 学生と企業技術者による合同研究技術発表会

日時：平成 30 年 2 月 23 日(木)13:00～17:00

会場：島根大学総合理工学部 1 号館 21 室，3 号館多目的ホール

【概要】

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC⁺）の一環として，島根大学総合理工学部・研究科において，「学生と企業技術者による合同研究技術発表会」が開催され，当センターから服部大輔 准教授が参加しました。

2-4-27 とくしま先進政策講座「アンカーサミット」

日時：平成 30 年 2 月 26 日(月)

会場：神山サテライトオフィス・コンプレックス

【概要】

平成 30 年 2 月 26 日(月)，サテライトオフィス立地で注目される徳島県神山町の「神山サテライトオフィス・コンプレックス」で開催された，とくしま先進政策講座「アンカーサミット」に，当センターの服部大輔 准教授が第 1 回講座「水素社会」のアンカーとして招かれました。

この講座は徳島県及び県内の市町村職員を対象とする研修でありながら，産学民官のキーパーソンを集め，マッチングフォーラムを開催するという今までにない珍しい形で開催されたため，服部准教授を含む各講座のアンカーから，開催までの準備や当日の運営，感想に至るまで，幅広い情報交換が行われました。

このサミットには，ほかにアンカーとして公立鳥取環境大学環境学部の新名阿津子 准教授(エコツーリズム)，徳島大学大学院の佐々木千鶴 講師(バイオマス)，会津大学産学イノベーションセンターの藤井 靖史 氏(スマートシティ)，ファシリテーターとして徳島大学上勝学舎の澤田俊明 客員教授と(有)環境とまちづくりの坂本真理子 主任研究員，講座全体の企画を担当する阿南工業高等専門学校の加藤研二 准教授，研修を運営する徳島県自治研修センターの阿部 篤 次長が参加しました。



2-4-28 産学連携学会 地域社会実装研究会 第1回定例研究会「先進事例に学ぶ産学官連携の可能性」

日時：平成30年2月27日(火)13:00～17:30

会場：高知県産学官民連携センター，高知大学地域連携推進センター

【概要】

産学連携学会 地域社会実装研究会の主催で、「先進事例に学ぶ産学官連携の可能性」と題して第1回定例研究会が高知市で開催され、北村寿宏 教授が参加しました。

「地域社会実装研究会」は、人文・社会科学領域が寄与可能な産学連携を推進し、地域におけるイノベーション・エコシステムの創出に貢献することを目的に平成29年7月に設立され、今回は、「土佐まるごとアカデミー」など積極的に産学官・地域連携を展開する高知県産学官民連携センターと、高知大学地域連携推進センターを視察し、理系だけでなく、人文・社会科学領域も含めた今後の産学官連携のあり方について、意見交換を行いました。

まず、高知県産学官民連携センター(ココプラ)の視察と、高知県産業振興計画の取り組み紹介が行われました。

この中で、高知県が支出して、地域企業の人材育成を積極的に進め、産業振興に結びつけようという「土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）」の実績が上がっていることが報告されました。

次に、高知工科大学，高知県立大学，高知工業高等専門学校による産学官連携活動の紹介がありました。

高知県立大学の宇都宮先生が「大学生が選書した本を地域の人に勧めるプロジェクト」と題して、高知工科大学の永野先生が「森林資源を活用する木質バイオマス発電所・燃料製造工場―枯れない油田プロジェクトの社会実装―」と題して、高知工業高等専門学校の宮田先生が「高知高専の産学官連携活動の取り組み」と題して、発表されました。

その後、場所を高知大学地域連携推進センターに移動して、高知大学での地域連携と産学官連携の取り組み紹介が行われました。

高知県では、県が主導して、大学や高専，企業や市町村の自治体が積極的に関わって、地域連携や産学連携が活発に行われていることがよく理解できました。

夕方は、懇親会に参加し、地域活性化や産学連携との関わりなどについて、参加者と意見交換を行いました。



高知県産学官民連携センター(ココプラ)



高知大学地域連携推進センター

2-4-29 静岡大学産学連携協力会取材

日時：平成 30 年 3 月 5 日(月)

会場：島根大学産学連携センター（松江地区）

【概要】

静岡大学産学連携協力会の河合文雄 事務局長が当センターを来訪され、島根大学の様子、当センターの運営や産学連携、地域との協力の取り組み状況などについて、北村寿宏教授が取材を受けました。

2-4-30 アンダラス大学 来訪

日時：平成 30 年 3 月 7 日(水)14:00～

会場：島根大学産学連携センター（松江地区）

【概要】

本学と姉妹校であるインドネシア アンダラス大学の副学長（本学の修了生）が、地域発展のための産学連携の進め方について、日本の大学などの状況を視察することを目的に、西スマトラ州の研究開発部局の担当者と来学されました。

学長及び学部長表敬の後、附属農場と産学連携センターを訪問され、当センターでは服部大輔 准教授が産学連携におけるセンターの役割など説明されました。

2-4-31 北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウム「オホーツク地域における金融機関と大学機関との連携の可能性」

日時：平成 30 年 3 月 8 日(木)14:00～18:30

会場：北見工業大学 第 1 総合研究棟 2 階 多目的講義室

【概要】

北見工業大学の主催、産学連携学会 学金連携システム研究会の共催で、「オホーツク地域における金融機関と大学機関との連携の可能性」と題して、北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウムが開催され、当センターから北村寿宏教授が参加しました。

このシンポジウムは、産学連携学会 学金連携システム研究会第 18 回研究会としての開催も兼ねています。

先ず、「金融機関の気づきと行動力が地域を変える」と題して川名優孝 氏（東京海洋大学准教授）が、「金融機関との連携による中小企業支援」と題して伊藤慎一 氏（秋田大学准教授）が、「北海道における学金連携の事例紹介」と題して吉岡孝則 氏（北洋銀行 地域産業支援部 副部長）が講演をされました。

これらの講演では、地域産業の活性化のためには、大学や金融機関が連携し産学連携を進める産学官金連携の必要性が述べられると共に、各地域の連携の取り組み事例

が紹介されました。

また、引き続いて、内島典子氏（北見工業大学准教授）がコーディネーターとなり、講師3名がパネラーとなってパネルディスカッションが行われ、学金連携の必要性や意義、危惧するところや課題などについて議論が交わされました。

夕方は、懇親会に参加し、学金連携や産学連携などについて、参加者と意見交換を行いました。

本学では、学金連携がなかなか進んでいませんが、これらの事例を参考に、今後、進めることができると感じました。



講演



パネルディスカッション

2-4-32 やさしい医工連携シンポジウム 2018

日時：平成30年3月28日(水)13:30～16:30

会場：ビッグハート出雲 白のホール

【概要】

近年、社会を取り巻く技術革新が急激に進むなかで、様々な知恵・情報・技術・人材を「つなげる」ことによる、新たな価値創出の重要性が高まっています。こうしたなか、出雲市と島根大学では、平成26年度から島根大学医学部と市内企業の連携事業である「やさしい医工連携」を推進してきました。

今回のシンポジウムでは、当センター 地域医学共同研究部門の中村守彦 教授が、「「やさしい医工連携」が秘めた地域創出の可能性」をテーマに講演を行いました。松江地区からは、北村寿宏 教授が参加しました。

2-4-33 大学の地域連携、産学連携に関する勉強会

日時：平成 30 年 3 月 30 日(金)15:00～17:00

会場：三重大学レーモンドホール

【概要】

三重大学レーモンドホールで、「大学の地域連携、産学連携に関する勉強会」が開催され、当センターから北村寿宏 教授と小金民造 客員教授が参加しました。

三重大学の元地域共同研究センター専任教員の菅原教授（現：大学院工学研究科）から、建築をキーにした地域連携について話題提供がありました。会場となったレーモンドホールやこの活用による連携、千歳山荘の移築に関する地域連携の取り組みなどについて紹介されました。

その後、参加した国立大学法人共同研究センターの専任教員および元専任教員 6 名（長崎大学、徳島大学、電気通信大学、三重大学、島根大学 2 名）で、産学連携や地域連携に関する意見交換を行いました。

夕方には、山形大学と和歌山大学の元共同研究センター専任教員の 2 名を加えて、情報交換会を行い、産学連携や地域連携に関する情報交換を行いました。



2-4-34 平成 29 年度新産業創出研究会 定例会議

日時：第 1 回 平成 29 年 6 月 13 日(火)13:10～15:10

第 2 回 平成 29 年 11 月 24 日(金)13:15～15:15

第 3 回 平成 30 年 3 月 2 日(金)13:15～15:30

場所：島根大学総合理工学部

【概要】

公益財団法人 ちゅうごく産業創造センターでは、大学・高等専門学校において応用や実用化研究段階にある、もしくはそれに移行しつつある研究シーズをもとに、産学が連携してプロジェクトを形成し、国等の研究開発の公的支援制度への応募および事業化に向けての課題解決を図り、研究会以降の研究開発、実用化を効果的に進め、地域の新産業創出へ繋げることを目的に、研究テーマを募集しています。

今年度、本学では、総合理工学研究科の池上崇久 教授の研究テーマ「フタロシアニン誘導体を用いた新規近赤外線吸収色素材料の開発」が採択されました。

研究期間中に本学に於いて定例会議が 3 回開催され、そのうち第 1 回と第 3 回に当センターの北村寿宏教授が出席しました。

2-4-35 産学金官情報交換会

場所：島根大学産学連携センター（松江地区）

【概要】

島根県 産業振興課と公益財団法人しまね産業振興財団 技術支援課の担当者と、島根大学・県内企業との産学官連携に関する情報・意見交換を、今年度は6回（4月26日、6月7日、7月19日、9月20日、10月18日、12月6日）に亘って行いました。

【参加機関】

<学外>

- ・松江工業高等専門学校 地域共同テクノセンター，松江テクノフォーラム事務局
- ・島根県立大学 地域連携推進センター，地域連携課
- ・株式会社山陰合同銀行 地域振興部
- ・島根県 商工労働部 産業振興課，雇用政策課
- ・公益財団法人しまね産業振興財団 新事業支援課
- ・松江市 まつえ産業支援センター

<学内>

- ・産学連携センター，地域未来戦略センター，企画・地域連携推進課

2-4-36 産学連携センター活動協議会

場所：島根大学産学連携センター（松江地区）及び松江キャンパス

【概要】

産学連携センターでは、毎週火曜日に、センター長と専任教員との協議の場を設けており、今年度は41回行いました。

そのうち、月初めの12回（※）は、部門長と、地域未来戦略センターの教員及び企画・地域連携課のスタッフも協議に加わりました。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ・4月5日※，12日，19日，26日 | ・5月10日※，17日，24日 |
| ・6月7日※，21日，28日 | ・7月5日※，19日，26日 |
| ・8月2日※，9日，23日，30日 | ・9月6日※，20日，27日 |
| ・10月11日※，18日，25日 | ・11月1日※，15日，29日 |
| ・12月6日※，13日，20日，27日 | ・1月10日※，17日，24日，31日 |
| ・2月7日※，14日，21日，28日 | ・3月7日※，14日，28日 |

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動 / 各種外部委員活動等

2-5 各種外部委員活動等

産学連携を行うために、あるいは、産学連携で得た知識や経験を社会に活かすために、センターの各教員が公的な委員会などの活動に協力しています。

平成 29 年度に協力した委員会活動等の一覧とその活動の一部を以下に紹介します。

氏名	連携機関	連携内容
大庭卓也 教授	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	評議員
	島根県商工労働部	島根県中小企業・小規模企業振興推進協議会委員
	島根県商工労働部産業振興課	しまね地域産業活性化協議会 委員
	島根県商工会連合会	しまね地域資源産業活性化基金運営委員会委員
	松江市	松江市ものづくり振興会議委員
		松江市地域産業活性化新製品・新技術開発支援事業補助金審査会委員
	松江工業高等専門学校	平成 29 年度松江工業高等専門学校外部評価委員会委員
島根県産業技術センター	研究課題外部評価委員	
	島根先端電子技術研究拠点運営委員会	
北村寿宏 教授	株式会社全国鉄骨評価機構	鉄骨製作工場性能評価員
	島根県商工会連合会	しまね地域資源産業活性化基金審査委員会委員
	国立研究開発法人科学技術振興機構	地域産学バリュープログラム専門委員
	特定非営利活動法人産学連携学会	監事
	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員
松下幸之助 教授	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	「中国地域への定住移住促進に関わる方策検討調査」委員会委員
	一般社団法人日本技術者教育認定機構	認定審査 審査員
	一般社団法人島根県発明協会	第 20 回島根県学生児童発明くふう展審査会審査員
服部大輔 准教授	島根県立図書館	島根県立図書館ビジネス支援サービス協議会参加者
	徳島県庁自治研修センター	「産学民官協働と合意形成（低炭素社会の構築）」講演講師
		アンカー（講演・技術的取りまとめ及びワークショップの運営）
		「科学技術を活用した地方創生」講演講師
		アンカー（講演・技術的取りまとめ及びワークショップの運営）講師
アンカー		

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動/産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択

2-6. 産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択

産学連携による研究・開発活動を促進するために、様々な公的な助成制度を活用しています。

平成 29 年度に、当センター（松江地区）のスタッフがコーディネートし、直接申請に係わり採択に至った競争的資金の一覧です。

2-6-1 公益財団法人ちゅうごく産業創造センター

※平成 29 年度新産業創出研究会

テーマ名	研究者代表者	共同提案者
フタロシアニン誘導体を用いた新規近赤外線吸収色素材料の開発	総合理工学研究科 池上崇久 准教授	北村寿宏 教授

2-6-2 島根県

※平成 29 年度技術シーズ育成支援事業

研究課題	研究者	コーディネーター
島根県中標高地で栽培されるサツマイモ糖度の高位安定化技術の開発	生物資源科学部 足立文彦 助教	服部大輔 准教授
大気中粒子状物質を簡易的に捕集・測定のためのパッシブサンプリング装置の開発	生物資源科学部 鈴木美成 教授	北村寿宏 教授

2-7 広報活動

当センターでは、研究紹介や産学連携に関する情報提供を行うために、ホームページやメールマガジンの運用、研究者情報誌や研究シーズ集の発行など様々な広報活動を行っています。

平成 29 年度に行った主な広報活動を以下に紹介します。

2-7-1 島根大学研究シーズ集追加作成

研究成果を何に利用できそうかという視点で、産業界の方々に島根大学で行っている研究内容をわかりやすく紹介する目的で、平成 18 年度に島根大学研究シーズ集を作成した。

今年度は 2 シーズ追加作成し、同時に Web 上にも掲載した。

この内容は、当センターのホームページにも掲載しました。

【アドレス <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/res-pr/seeds02/home.htm>】

発行月	研究者	研究シーズのテーマ
8 月	吉山 裕規	Epstein-Barr ウイルス関連癌に特異的な抗腫瘍剤
8 月	浦野 健	新規モノクローナル抗体、及びそのタグ抗体としての利用

2-7-2 メール配信

当センターが主催する行事や関連イベント、研究情報など産学連携に関する様々な情報を、学内外に電子メールで配信しています。学外に向けては、「島根大学産学連携センターニュース」を登録者 689 名に（今年度末現在）配信しました。

※ 産学連携センター主催・共催・後援・関係事業等

配信日	配信先	題名
4/17	センターニュース	【アンケート】「やさしい医工連携」のための島根大学病院の見学について
5/12	センターニュース	島根大学・松江高専「学生による研究発表会&産学交流会」開催のご案内
6/9	センターニュース 産業ネット aff-ネット 松江地区教職員	島根大学・松江高専「学生による研究発表会&産学交流会」開催のご案内
6/23	センターニュース 産業ネット aff-ネット 松江地区教員	【再送】島根大学・松江高専「学生による研究発表会&産学交流会」開催のご案内
7/3	産業ネット aff-ネット	【再送】島根大学・松江高専「学生による研究発表会&産学交流会」開催のご案内
9/29	センターニュース	「アグリビジネス創出フェア 2017」出展のご案内
10/12	センターニュース	「アグリ・メディカル 新技術説明会」開催のご案内

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動 / 広報活動

10/13	センターニュース 松江地区教員	技術コミュニティラボ「ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラムの開発」開催のご案内
10/26	センターニュース	「メッセナゴヤ2017」出展のご案内
11/1	センターニュース	「MOTマーケティングセミナー」開催のご案内
11/1	センターニュース	DIS「ICT EXP02017in山陰」参加のご案内
2/6	センターニュース 松江地区教員	技術コミュニティラボ「データサイエンスの活用と機械学習」開催のご案内

※助成金情報

配信日	配信先	題名
4/4	松江地区教員	平成29年度JST「地域産学バリュープログラム」の公募について
10/2	松江地区教員	(公財)ちゅうごく産業創造センター 平成30年度「新産業創出研究会」の募集について
3/27	松江地区教員	平成30年度JST「A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ」(旧:地域産学バリュープログラム)第1回の募集について

※出展者募集等

配信日	配信先	題名
4/11	松江地区教員	「イノベーション・ジャパン2017-大学見本市&ビジネスマッチング」の出展者募集について
4/28	松江地区教員	「第7回おおた研究・開発フェア」の出展者募集について
6/1	松江地区教員	「アグリビジネス創出フェア2017」の出展者募集について
10/13	センターニュース 松江地区教員	技術コミュニティラボ「ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラムの開発」開催のご案内

※その他

配信日	配信先	題名
4/14	生物資源科学部 教員 総合理工学研究科 教員	「学生による研究発表会&産学交流会」の発表者の募集について学生への周知のお願い
5/8	生物資源科学部 教員 総合理工学研究科 教員	【再送】「学生による研究発表会&産学交流会」の発表者の募集について学生への周知のお願い
4/17	センターニュース	【アンケート】「やさしい医工連携」のための島根大学病院の見学について
6/29	松江地区教員	NEDO TCP「大学発の技術シーズを基にしたビジネスプランコンテスト」の募集について
8/4	松江地区教員	「未来2018」ビジネスプランの募集について

3 平成29年度科学技術相談（松江地区の担当分）

地域に開かれた大学の窓口として、大学の持つ専門知識や研究成果を地域に還元し、その発展に寄与するために、科学技術の相談等に無料で応じています。

平成29年度に当センター松江地区で対応した科学技術相談の件数は、下記のとおりです。

平成29年度の科学技術相談の件数：83件

【地域別】

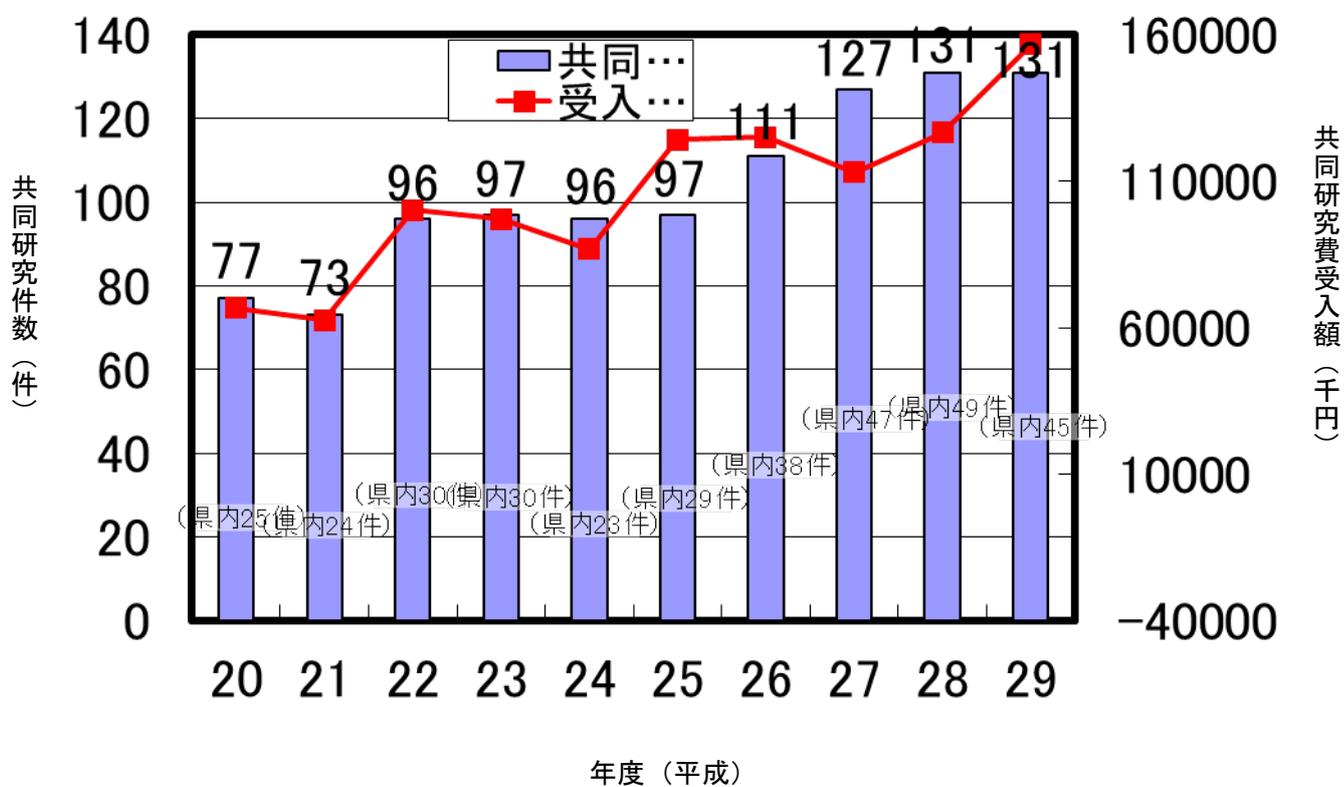
島根県内（東部 43 件，西部 4 件）	47 件
島根県外	35 件
不明	1 件

【対応組織別】

単 独 対 応	法文学部	0 件
	教育学部	0 件
	総合理工学研究科	0 件
	生物資源科学部	0 件
	産学連携センター	61 件
共 同 対 応	総合理工学研究科 産学連携センター	5 件
	生物資源科学部 産学連携センター	13 件
	総合理工学研究科 生物資源科学部 産学連携センター	2 件
	地域未来戦略センター 産学連携センター	2 件

4 平成29年度共同研究

平成29年度までに実施された共同研究の件数と受入額を以下に紹介します。



産学連携センター地域産業共同研究部門は平成 29 年現在で下記の実験装置を常置機器として設置しております。

【原子間力／磁気力顕微鏡】

物質の表面および磁気構造を高分解能で観察する装置です。大気中観察タイプで観測できる試料サイズは $100\phi \times 10\text{mm}$ の大きさまで。また、金属、半導体、有機物など対象を選ばず観測できます。観察最大範囲は $100 \times 100\mu\text{m}$ です。



【走査型電子顕微鏡】

物質の表面構造を高分解能で観察する装置です。観察有効倍率約 5 万倍。現在までのところ、産学連携センター地域産業共同研究部門は表面を金などでコーティングするための蒸着装置やスパッタ装置を持っておりませんので、絶縁物の観察は、あらかじめコーティングをご自分でお願いします。



島根大学産学連携センター(松江地区)

平成29年度年報 通巻第22号

2020年6月 発行

編集 島根大学産学連携センター(松江地区)

〒690-0816 松江市北陵町2番地 TEL 0852-60-2290 FAX 0852-60-2395

E-mail crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp URL <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>